

# オミクロン発症まで日数短く

## 県「検査受診を」 急な体調変化

県内でも急速に感染が拡大しているオミクロン株。主流になっていたデルタ株に比べて感染から発症までの日数が短い傾向が確認されつつある。県によると、デルタ株は発症まで平均で四、五日ほどだったが、オミクロン株は平均で二日ほど。その影響で感染拡大も早いとみられる。

感染から発症までが短いと、感染が判明した時点でより幅広い感染が広まっている可能性が高い。県ではこれまで、濃厚接触者に積極的にPCR検査を行うことで感染拡大を止めてきたが、杉本達治知事は「（早い検査と）隔離による拡大防止が難しくなっている」と指摘。各自の感染対策が大切だと呼び掛けた。

全国と同じく県内でも主に若年層で感染が拡大している。十日に感染が判明した四十八人のうち、最年長は六十年代の三人で、最も多いのは二十代の十一人。そのためか症状はいずれも軽症か無症状で、全員が感染症指定病院には入院せず宿泊療養施設に入所した。

県健康福祉部の宮下裕文副部長によると、症状は世界的な報告事例と似ている。一日目は熱が出て次の日には下がり、その後はどの痛みや鼻汁が出る場合が多い。宮下副部長は「オミクロン株は急に熱が出る」とも多いとして、急な体調変化があれば外出を控え、PCR検査の受診などを呼び掛けた。（藤共生）